

地域の課題をとらえて

3氏が一般質問



佐藤 忠志

・有害鳥獣駆除対策について
・幌延町職員の組織機構について

有害鳥獣駆除対策について

質問▶近年エゾシカ、アライグマによる農産物を始め家庭菜園等の被害が多く発生している。駐在所より、幌延町でもヒグマの出没が多発しているので散歩やサイクリングなどは当面の間控えるような回覧もあり、町民の生活に支障が出るような状況になっている。

また、カラスによる被害、特に春先の産卵期が危険で、中には散歩中に攻撃を受けケガをする人や散歩する場所を変更した話も聞いている。

増え続けるこれら有害鳥獣駆除対策をどのように考えているのか伺います。
町長▶エゾシカやヒグマ、カラス、キツネは、銃器や箱罠による駆除。また、特定外来種であるアライグマ

は野外から完全な排除を長期的な目標として箱罠による駆除を続ける。また、市街地内では通行人に対するカラスの威嚇行動や、アライグマによる家庭菜園での盗食等が増加しているので、今後どのような方法が効果的か検討し、来年度から実施したいと考えている。

質問▶現在の対策費用を今後、増額する考えは。

町長▶これまで駆除一辺倒だったが、農家自ら行う防除に対する取り組みを加え、防除に対する補助も必要と考えている。

質問▶捕獲したエゾシカの受入れ体制について、平日勤務している人が土日も捕りたいが、西天北五町衛生施設組合が休日で受け入れができない課題について伺います。

町長▶五町の組織なので、全体的に協議しなければな

らない。

幌延町職員の組織機構について

質問▶国の指導もあり、行政組織の見直し、職員の定数管理を適正にする指導により町も行政改革、幌延町自立プランの作成など、地方分権に即応した組織の見直しにより、一時期採用を控えた結果、年代層のひずみが生じ各部署の組織機構に管理職の兼務職、部署の固定化が多く生じている現状について伺います。

町長▶毎年新人も年代層ずつ空間の出ないように、新

人なり社会人枠で採って、

それぞれ経験年数を積み、中間職を少しでも埋めていけるような体制を作っていく。

質問▶若手の管理職登用に

ついて伺います。
副町長▶令和4年4月には30代の係長職を増やすなどの対策を採りながら今後20代後半の職員も能力経験備わってくるので係長職を担える人材が増え、課長職、主幹職の負担が軽減されると考えている。



高橋 秀明

・公営住宅の空き状況について
・道の駅構想の実現について

質問▶幌延町では貸室が慢性的に不足していて人口が増えない要因の一つになっている。令和3年度の公営住宅空き状況を示してください。

(町長よりこざくら団地、

宮園団地、問寒別団地の空き状況の説明があり、また、特定公共賃貸住宅の空き状況の月別推移の説明があった。)

質問▶電源三法交付金を適